

■ 令和4年度 第6回 秋葉区自治協議会

日時：令和4年9月30日（金）午後1時30分

会場：秋葉区役所6階 601・602会議室

1 開会

（金子会長）

皆様、大変お疲れさまです。

では、ただいまから第6回秋葉区自治協議会を始めてまいりたいと思います。

本日の開会のあいさつは、第1部会の横山委員からお願いいたします。

（横山委員）

皆さんこんにちは。改めまして、一般社団法人新津青年会議所の横山喜規です。せっかくですので新津青年会議所のことをお話しさせていただきたいと思います。新津青年会議所は、いわゆる単年度制ということで、1年間の組織となっております。1月1日から12月31日までの1年間となっております。1月1日からまた新年度体制が始まるというような団体であります。私も2021年度、理事長という職を仰せつかりまして、何とか1年間やり遂げて、今年2022年度に突入したということになります。入所して、こうやって自治協議会の皆さんと一緒にお会いすることができて、貴重な経験をさせていただいている最中でございます。2022年度は直前理事長兼監事ということで、直前理事長というのは昨年、理事長した人がなる役職です。

今年は創立65周年の実行委員長をしてくださいということで仰せつかりまして、7月31日に秋葉青空こども食堂の事業をさせていただきました。それから9月4日に記念式典、祝賀会を挙行させていただきました。本当は新津の地でやりたいという思いがあったのですが、断腸の思いでホテル日航で行わせていただきました。でも、秋葉区の特徴を何とかできないかなということで、区役所をお願いして、さつきちゃんとゆうたくんに来てもらいました。さつきちゃんには受付で皆さんと写真を撮ってもらったり、ゆうたくんには秋葉区の特産が当たる抽選会でプレゼンターとして大活躍していただきました。また、来賓として長崎区長にもお越しいただきまして、この場を借りて御礼を申し上げます。ありがとうございました。

新潟には22の青年会議所があります。岩船、村上から糸魚川のほうまでありまして、近場では新潟、白根、五泉、加茂といったようなところがあります。また、日本青年会議所というものがありますし、全国各地に青年会議所があります。各国にも青年会議所

がございまして、世界規模の青年会議所という形になっておりまして、今回、ロシアによるウクライナ侵攻がありまして、2月だか3月だったかと思えますけれども、日本青年会議所のほうからウクライナの青年会議所とロシアの青年会議所から一言ずつコメントが届きまして、どちらもこの紛争は悲しんでいるというコメントを読ませていただきました。いろいろな青年会議所があって、いろいろなやり方をしています。各地の問題や課題に向かっている青年会議所、おまつりや魅力を発信するようなイベントなどに携わる青年会議所もあります。新津青年会議所は残り3か月ありますけれども、10月には今、第1部会でお世話になっている、きらめきサポートでお世話になっているフォトコンと、10月29日に金屋球場にて社会人野球チームを呼んで、そういうイベントを今、審議しておりまして、これから動いていくとなっております。まだチラシを用意していませんでしたけれども、オール足利さんという栃木のほうから、そして新潟コンマーシャルという、どちらも全国規模の強い野球チームがきて、高校生に野球教室を開いたり、トクサンTVというユーチューバーをお呼びして、魅力の発信、秋葉区の発信をしていただきたく予定ですので、お時間のある方がいらっしゃいましたら、金屋球場に、またもしくは新津青年会議所のホームページ等を見ていただければ載っていると思いますので、ぜひともよろしく願いいたします。

最後になりますけれども、榊形屋のお話をさせていただきますと、新米が入りまして、おいしく食べられますので、ぜひとも、榊形屋 崑よ 榊にきていただきたいと思います。サンマもありますし、ちょっとお金を出していただくと松茸もありますので、旬のものを食べて、皆さん元気を出していきましょう。

(金子会長)

横山委員ありがとうございました。

それでは、本日までメディア取材のほうです。FMにいつ様、朝日新聞様もいらっしやっていますね。そのお三方から取材の協力依頼を頂いております。写真撮影・録画・録音など許可してよろしいかお諮りしたいと思いますがいかがでしょうか。

ありがとうございます。異議ないようですので、許可することにいたします。

2 議事

(1)「令和4年度Akihara教育懇談会」の開催について(報告)

(金子会長)

それでは、次第に基づきまして進めさせていただきます。

最初に次第(1)「令和4年度Akihara教育懇談会」の開催についてのご報告を秋

葉区教育支援センター牧野所長よりお願いいたします。

(教育支援センター所長)

よろしくお願いいたします。秋葉区教育支援センター牧野です。

まず報告に先立ちまして、A k i h a 教育懇談会の際には、自治協議会の皆様にも多数参加していただきました。懇談会を支えていただいて、本当に感謝いたします。ありがとうございました。

では、報告させていただきます。まず事業目的ということで、ここ数年教育懇談会を開催するにあたって、個性を活かし持続可能な秋葉区を担う次世代を育てていくということを目指して取り組んでまいりました。今年は特にコミュニティ・スクールが全市展開となった初年度ということで、地域と学校が子どもたちを育てる当事者としての意識を高め、地域の教育力向上をはかるとともに、地域が教育に積極的にかかわる機運を醸成するということをねらって開催させていただきました。期日8月31日午後、秋葉区文化会館で行いました。日程は、第1部がコミュニティ・スクールにかかわる講演会。第2部がグループワークという形になっております。参加者は、秋葉区内で教育にかかわる皆様ということで、記載の皆様にご案内を差し上げて、多く参加していただきました。講演会の内容につきましては、次ページにレジュメをそのまま載せさせていただいております。(2)でコミュニティ・スクールにかかわる講演会の要旨を簡単にまとめさせていただいております。後ほど、お読みください。

8、参加者アンケートということで、5つの項目についてアンケートをさせていただきました。①、②につきましては、制度についての理解を促すことができたかということに興味を聞いております。③、④、⑤は、今年度のねらいでありました、地域と学校が当事者意識を持って、積極的に教育にかかわるといふ機運醸成に寄与したかどうかということで、その内容を聞いております。特に③コミュニティ・スクール、地域学校協働活動を一層推進しようと思ったというところは、よく理解できたという回答は63.2パーセント、肯定的評価100パーセントということで、よい評価を頂きました。他の項目につきましても、90パーセントを超える肯定的評価を頂きまして、大変成功した会だったと思います。自由記述もたくさん頂きましたので、すべて載せてあります。おいでいただいた方には、これは自分だなというものがあるかと思ひます。積極的で前向きなコメントがたくさんありまして元気が出ますので、こちらのほうもたくさんですので1つ1つ読み上げませんが、後ほど、見ていただければと思ひます。

続きまして、第2部のグループワークについて、グループワークを進行しましたみらいずworksのほうから報告が届いております。

先ほど、参加者人数をお話ししませんでしたでしたが、127名申し込みいただきまして、当日参加もありましたので、130名ほどの参加で実施いたしました。

4ページですが、「地域の子どもを育てる当事者として何ができるか」というテーマについて、5つの視点で話し合いをしていただきました。視点の1つ目が、子どもたちの主体性や自信を育むこと。2つ目、未来の地域の担い手を育成すること。3つ目、郷土愛を育む秋葉区らしい教育活動について。4つ目、学校、地域を支える人材の発掘、育成について。5つ目が地域の教育力向上についてということでしたが、未来の担い手を育成することについて話し合っているグループが多かったように見取れました。話し合いの様子は、そこに写真で掲載しております。話し合いのときにメモ用紙とテーブルを兼ねたえんたくんの紙面の写真も掲載してあります。最後に、話し合いの中でこれはよかったとか、ぜひ共有したいというものをまとめていただいたものが、収束カード記録です。上段が実物の写真で、下が書いてあることを文字起こししたものになっております。上段が見にくくても下の段にまとめて書いてありますので、ご覧ください。

続きまして、(5)のところ収束カードのまとめというところがありますが、どのようなアイデアが出たかをグルーピングして、4つのグループでまとめさせていただいております。今後の参考に、また各校にも、地域の皆様にもお届けできればと思います。

4つではありません、失礼しました。5つでしたね。後ろにもう1つありました。失礼いたしました。

私も運営にかかわらせていただいて、本当に前向きで、未来に向かって秋葉区が力を合わせて進むという雰囲気を感じられて、とてもよい会だったと思います。山口県からおいでいただいた講師の小西先生からも、秋葉区のパワーはすばらしいということで、大変お褒めの言葉を頂きました。本当にありがとうございました。報告は以上です。

(金子会長)

牧野所長ありがとうございました。私も参加させていただきました。幼児教育から小、中、高、大学、そして地域の関係者まで一堂に会してこういう教育をテーマとした集まりを持つというのは、とてもめずらしいことだと思います。秋葉区は画期的なものをずっと続けている。コロナ禍を越えても継続しているという、そういった姿に非常に感動しましたし、小西先生がおっしゃるように、エネルギーがとてもあふれていたような、そんなふうに思いました。小西先生も逆にエネルギーを頂いたなどと、そんなことをおっしゃっていたかと思います。ということで、このすばらしい機会をつないでいきたいと思いますが、ではただいまの説明に関しまして、皆様からご意見、ご質問、あるいは

参加された方のご感想。自治協議会の委員は 10 人くらいでしょうか。それもまたすごいことだなと思うのです。教育がテーマのこういうフォーラムに自治協議会関係者が 10 人集うということは、秋葉区の大事なそういった意識なのだと思うのですけれども、ご感想でもけっこうです。何かございましたら、ぜひ挙手してご発言ください。いかがでしょうか。

(渡邊委員)

大変な貴重な機会を、そして大規模な準備を進めていただき、ありがとうございました。大変学びが多く、もし来年度、再来年度開催されるということでしたら、ぜひ当事者である子どもたちもどこかしらの段階でかかわっていただけるといいのかなと思っております。すみません、お願いでした。

(金子会長)

牧野所長いかがですか。

(教育支援センター所長)

ありがとうございます。本当にいい提案を頂いて、ありがとうございます。検討して、ぜひ実現したいと思います。よろしくお願ひいたします。

(金子会長)

ありがとうございます。ほかいかがでしょうか。

(保科委員)

この教育懇談会には、参加しなかったのですが、これと同じような活動ということで 9 月 23 日、内容的には小学生が企画したまつりをやりましょうということで、今回、実施させていただきまして、区長はじめ、多くの方がご来場いただきました。ありがとうございます。

小学校 1 年生から 6 年生までの生徒が企画した内容、これをすべてステージ演出から最後の花火を上げるまで、募金の活動まで全部子どもたちが企画したものをそっくり応援して、実施させていただきました。当日は残念ながら小雨が降りましたが、最後の花火まで何とかやりました。今日、午前中は後片づけがやっと終わりました、それから小学生が稲刈りをしました。山の手では前からこういう活動をやってきましたので、それほど問題ではないかなと思ったのですが、今日、参加したボランティアの人から、コミ協活動以外にこういう活動をするのはきついという意見が出まして、あまり度を越しても長続きしないのだなと、そういう認識を一応、持ちました。こういう活動に関しては、以前から実施してまいりましたし、今後も継続してやっていきたいなと思っております。

(金子会長)

保科委員、大変お疲れさまでした。わが家にもちゃんと花火の音が聞こえておりました。すごく華やかな空気が強かったです。ぜひまた頑張ってくださいたく、何も手伝わなくて申し訳ございません。ほかいかがでしょうか。よろしいですか。

もう一点、私もこの教育懇談会に参加させていただいて、一番印象に残ったのが、これまでコミュニティ・スクールというのが今回のメインテーマだったのですけれども、コミュニティ・スクールは地域ぐるみで子どもを育てる、子どもを教育するという、そういうものかと思っていたら、そうではないのですよね。そうでないというか、それも入るのですけれども、特に小西先生のお話からすごく感じたのは、子どもの教育を通して、大人も一緒に育つという、地域も一緒に育っていく、それがコミュニティ・スクールなのだということが、私の中では非常に大きな発見、学びとしてあったような気がします。そのとおりだなと思いました。ぜひさまざまな取組みを通して子どもたちと一緒に我々も育っていくような、そんな取組みにしていければと思った次第です。大変ありがとうございました。では、以上で、次第(1)「令和4年度Akiba教育懇談会」の開催についてのご報告を終わらせていただきます。

(2) 令和5年度特色ある区づくり予算<区自治協議会提案事業>事業アイデアについて

(金子会長)

続きまして次第の(2) 令和5年度特色ある区づくり予算<区自治協議会提案事業>事業アイデアについて、私から資料を基にご説明させていただきます。資料2をご覧ください。

前回、会議が終わった後にワークショップを開かせていただきまして、皆様から毎年熱のこもったご議論を頂くのですけれども、それを元に事務局のほうにさまざまな事業アイデアをご提出いただきました。そちらのアイデアを一覧表にしてまとめたものが、資料2となります。最初に一番上の列が、黄色い帯になっているのが、区役所が行う部分です。区づくり予算の事業アイデアの一覧ということになります。そして、別紙を挟んで、緑色の帯が一番上に来ているものです。こちらのほうが自治協議会提案事業ということで、自治協議会が主体になって行う事業のアイデアの一覧となります。大変膨大な数の事業提案になっておりまして、こちらのほう、今後、提案事業の検討委員会を開いて、絞り込んでいく、もしくは合体して、何かよりよい提案に編集していくという、そういった作業が行われるわけなのですけれども、今の時点で皆様から何か補足のご意

見とか、ご質問とかを本日、お聞きしたいと思っております。一応、少し時間を頂くのですが、やはりせっかく出していただいたので、事業名の部分だけでもさっと私のほうで読み上げてまいりたいと思います。まず、1ページからご覧ください。

一番上から参ります。「新津川遊歩道へのトイレ」、「ベンチの設置」、「新津川の環境改善」、「新津川遊歩道管理の仕組みづくり」、「菩提寺山歩道泥道対策」、「自然災害に対する強靱な地域防災力の推進事業～防災士活動に助成金の交付～」、「公共交通利用促進事業（継続事業）」、「地区ビジョン策定支援事業」、「自治協議会においてタブレット端末を活用」、「こどもとつながり支えるプロジェクト事業」、「食べることを考える」、「『S Lと賑わいの歩道』整備事業」、「活かす鉄道の町」、「農業体験を通して食への関心を持とう!」、「A k i h a もち麦もつともち麦」、「おいしく食べて健康増進秋葉の里白雪もち麦魅力発信作戦区民リーダー育成事業『もち麦倶楽部』」、「花のまち・食のまち・育てるまち」、「A k i h a うん米推進事業」、「A k i h a なつかし横丁」、「新津駅東口前の活性化事業」、「新津駅前昭和公園整備事業」、「新津駅東口右旧駅中サテライト有効利用事業」ということで、こちらが特色ある区づくり予算、区役所主催で行う部分のアイデアとして出ています。

あと別紙のほうは、渡邊委員から非常に詳細なご提案を頂きまして、この一覧表の中には、書き込みきれないということで、別紙として扱わせていただいています。

続きまして、緑色の帯のほうです。自治協議会提案事業自治協議会主体の部分の事業アイデアになります。7ページ目、「菩提寺山歩道泥道対策」、「うるおいとやすらぎのあるまち」、「これからの教育をつくる〈ひとのわ〉」、「過去に学び先見性・想像力を駆使した防災訓練及び防災意識の向上」、「秋葉区一斉（11 コミ協）防災避難訓練」、「作って食べよう農業体」、「秋葉おとな大学もち麦クッキング」、「楽しく元気なまちなかとやさしさのあるまちコミュニティスクールの充実」、「楽しく元気なまちなかとやさしさのあるまち多世代サロンによる情報共有化の充実」、「楽しく元気なまちなかとやさしさのあるまち食への関心と健康づくり」、「楽しく元気なまちなかとやさしさのあるまちコロナとの共生」、「コロナに負けないスポーツ活動」、「地域経営入門セミナー」、「持続可能な街づくりへの『地域経営入門セミナー』の開催」、「続歴史講演会（秋葉区の偉人講演開催）」、「八幡山遺跡と石油の里ハイキング」、「花いっぱい運動の展開」、「『にぎわいの里』ウィーク～音楽と芸能の祭～」、「はさ木で地域農業活性化の支援（おとな大学）」、「きらめきサポートプロジェクト」ということで、こちらのほうも渡邊委員からご提案、ご詳細な部分を別紙としてつけさせていただいております。

見出しだけのご紹介で大変恐縮なのですがけれども、もし、ここのところは少し今、ア

ピールしておきたいとか、補足でコメントをしたいとか、そういう方がいらっしゃるかもしれません。ご提案された事業で、ここは少し自分の意図を伝えておきたいような点がございましたら、ぜひ遠慮なく挙手して、ご発言いただきたいと思っておりますけれども、いかがでしょうか。

大変失礼いたしました。本日配られた追加の資料2が一枚ございまして、「A k i h a アクティブシニア塾」というものがもう一点ございました。大変失礼いたしました。いかがでしょうか。何か補足発言ございましたらどうぞ。頂きたいと思っておりますが、何かございますか。

(渡邊委員)

特色ある区づくり事業のほうにつきまして、スクールソーシャルワーカーという活動をしていらっしゃる方をお招きして、講演会をしたいと思っております。これをなぜ開きたいと思いましたがといいますと、コロナの後で学校に行けなくなっているお子さんたちが増えている状態があります。それに伴って、お子さんだけではなくて、親御さんもちよっとつらい思いをされていたりしますので、学校と家庭だけではなくて、そこをつなぎ合わせる、あるいはほかの方々を連携させていくということが大事になっている状態なので、この企画を提案させていただきました。

(金子会長)

ありがとうございます。ほかにいかがでしょうか。

(長谷川(啓)委員)

3ページに掲載されていますアイデア一覧の中の長谷川ですけれども、先月のワークショップに参加させていただいて、もち麦愛がますます燃えました。そして、最初、もち麦を食べたときはおいしくないなと思ったし、これは特産になるのかしらとクエスチョンマークが私の中にはたくさん浮かんだのですが、その後、自治協議会委員としてもち麦のさまざまな活用方法をお聞きして、レシピができて、実際に食べてみると本当に痩せますし、健康になれますし、血圧も下がるし、こんなにすばらしいものはないと思いました。そして、今回、事業提案をするにあたりいろいろ調べました。そうしましたら、ワークショップの中で若いメンバーと一緒にだったので、もっと簡単に食べられるといいなとおっしゃって、その発言からネットで調べたら、パックご飯が出ています。取り寄せて食べました。高いです。おいしくないです。秋葉区はもっとおいしいものを作りたいと私は願っています。

そして、昨年までの産業振興課の課長が、最後の3月にレクチャーくださった資料をもう一回、よく見てみると、首都圏に売り出すのだと。将来的な構想を文字化されてい

ますので、このまま放っておいたら消えるかなと思う私は、危惧を持って、米に移るのかなみたいなの、うん米のほうに移ってしまうのかなと思ったので、あえてここで勇気を持って発言をさせていただいています。楽天で越後製菓がはねうまもち麦として出しているのですが、おいしくないです。あれをいかにおいしく食べるかなのだけでも、最初からおいしくればもっと売れるだろうなと思いますし、試食したい方は、うちにまだあるので、ぜひお声がけください。どうぞあげます。以上です。どうぞよろしくお願いたします。

(金子会長)

長谷川委員ありがとうございます。

ほかいかがですか。よろしいでしょうか。特になければ、皆様ぜひ、これは本当に多様で魅力的な事業がここに並んでいるなと感じております。ぜひ自分たちで出したこのアイデアを皆さんのほうでしっかりと読み込んで共有していただいて、10月25日に提案事業検討委員会を開催しますので、ここにお集まりの皆様は、またそこで活発なご議論を頂いて、来年度の方向性を決めていただければというふうに思っております。

9月の締め切りに提出できなかった自治協議会提案事業のアイデアはまだ受けつけることができるということなので、忘れていたというように今、思いだした方、なるべく早めに事務局のほうに書式を使ってご提出いただければと思います。

では、以上をもちまして、次第の(2)を終わらせていただきます。

(3) 次期区ビジョン基本方針(案)と次期区ビジョンまちづくり計画素案について

(金子会長)

続きまして、次期区ビジョン基本方針(案)と次期区ビジョンまちづくり計画素案について、副区長より説明をお願いいたします。

(副区長)

副区長の古俣です。いつも大変お世話になっております。

次期区ビジョンまちづくり計画の策定にあたりまして、これまでに幸福度調査の実施やワークショップの開催はじめ、数々のご協力をたまわっておりますことをこの場をお借りしまして、感謝を申し上げます。ありがとうございます。

本日はこれまでの基本方針(案)に加えて、まちづくりの方針としてもう一段階踏み込んだ記述の資料を準備させて頂きましたので、これらを説明させていただき、本日以降にまたご意見をちょうだいできればと考えておりますので、どうかよろしくお願いたします。

それでは早速ですが、お手元に資料3-1と3-2をご用意ください。資料3-1は、これまでも皆様からご覧いただいていた次期区ビジョンまちづくり計画のうち、基本方針素案を抜粋したものとなります。3-1をお開きください。今年の春までに皆様から頂いたご意見をふまえて、修正を行い、さらに市長と副市長からも内容を見ていただいた後、パブリックコメント、市民意見の募集を行ったところです。パブリックコメントにおいてもご意見をちょうだいしております、その意見も加味して修正を行っております。

資料3-1の3ページの一番上、あるいは表紙のほうにも書かれておりますけれども、区の将来像でございます。当初は、3つの案を提示させていただきましたが、記載のとおり「里山と水に囲まれて、花と緑あふれる笑顔咲きそろうまち」に賛同された方が多く、自然環境を第一に持ってくることで、魅力が区民、区外にも伝わりやすい。それぞれの人が笑顔でいられるという目指すべき姿が示されていて、共感できるといったご意見も頂いたことから、こちらの将来像を書かせていただきました。その素案の2ページのほうには、こちらは区の特色、区の概要となっております。説明は割愛させていただきます。3ページから4ページにかけては、目指す区のすがたを記載しております。

3ページの右側のほうです。緑色の帯のところに「やさしさがあふれる楽しく元気なまち」がありますが、当初は「楽しく元気なまちなかとやさしさのあるまち」としていたところを修正いたしました。また、4ページのほうになります。右側の帯に「可能性を生み出し・育て・活かすまち」がありますが、当初は、「育て・生み出し・活かすまち」としていたものを修正したものでございます。これら4つの目指す区のすがたの内容については、それぞれ各項目の下に○を用いて記載しております。こちらの内容も、皆様からのご意見も反映させていただいて、修正を行っております。改めてご覧いただき、後日でけっこうですので、ご意見をいただければと思います。

続きまして、資料3-2「秋葉区区ビジョンまちづくり計画（素案）」をご覧ください。先ほどの区ビジョン基本方針は、将来像や目指す方向性を示すもので、新潟市総合計画の基本計画の一部として策定されています。他方、その基本方針をふまえ、より具体的な取組みの方向性を示すものが資料3-2となります。こちらのほうもまだ素案の段階ですので、全体の構成やレイアウトを作り込む途中のものですから、今後、変更する場合がございますので、何卒ご了承をくださるよう、お願いいたします。

3-2の表紙をおめくりください。ページ番号は右下のほうにございます。2ページは計画の構成を記載しております。また、飛びますけれども、はぐっていただいて4ページから5ページにかけては、各区のすがたを数値を用いてお示ししております。

6 ページは、区におけるまちづくりの方向性を掲載しております。8 ページですが、先ほどお話しした区ビジョン基本方針（案）を掲載しております。

さらに9 ページから 11 ページにかけては、「第1章秋葉区の概要」になります。こちらのご覧いただいている内容は、現在の区ビジョンまちづくり計画の内容を仮置きしております。現在、作業中ですのでご了承をお願いします。13 ページ、14 ページは、「秋葉区区ビジョンまちづくり計画体系図」となっております。続きまして、15 ページからは、「第3章秋葉区の現状と課題とまちづくりの方針」として、目指す区の姿の実現に向けた取組みを項目立てて書き込んだものです。

16 ページをご覧ください。左上に目指す区の姿の項目として、オレンジの部分ですが、「Ⅰ、環境に配慮した潤いとやすらぎのあるまち」があり、「○愛着と誇りを持てる里山文化の創造」の部分が目指す区の姿の実現に向けた取組みに当たります。その項目に関して、現状と課題を記述したうえで、下半分にそれに対応したまちづくりの方針を示しております。さらに 20 ページをお開きください。「目指す区の姿」、「Ⅱ、やさしさがあふれる楽しい元気なまち」で、その実現に向けた取組みが、「○安心・安全なまちづくり」という項目出しをしております。こちらは記述量が非常に多いことから、20 ページから 21 ページにわたって記載をさせていただいております。枠囲みに記述したまちづくりの方針に沿って、今後、2年ごとに実施計画を策定し、目指す区の姿に向けた具体的な事業を計画、実施してまいります。この枠囲みのまちづくりの方針ですが、基本方針と同様に里山の整備、利活用の促進や脱炭素の取組みといった部分が追加で溶け込ませております。さらに詳細な取組み内容については、実施計画の中で組み立てていくこととなります。項目が多くて、内容も多岐にわたっているため、時間の関係もございまして、詳細な説明は省かせていただきますが、委員の皆様から一度、目を通していただきまして、ご意見がございましたら、様式は問いませんので、事務局までファックス、メール、あるいは直接ご意見をお寄せくださるようお願いいたします。また、ご意見につきましては、まことに恐縮ですけれども、本当に短い時間で申し訳ないのですが、10月7日までにお寄せいただけると、大変ありがたいと思っております。

はなはだ簡単でございますが、説明を終わります。よろしく願いいたします。

（金子会長）

古俣副区長ありがとうございました。皆様からもたくさんご意見を出していただいまして、それを反映していただいた形で、だいぶまとまってきたなど、最終形に近づいてきたなというところでございます。10月7日までにもし何かご意見ある方は、直接事務局のほうにお送りいただけるというご案内でしたけれども、今、この場でまたご意

見とか、ご質問とかございましたら、お伺いをしたいと思いますので、挙手をしてご発言ください。いかがでしょうか。

(伊藤(直)委員)

いくつかあるのですが、後でまとめて出すということなので、まとめてお出ししたいと思いますが。

まず、この素案の4ページ、5ページ、ここに各区のすがたとあって、人口のことが書いてありますけれども、驚くべきことに、現在、令和2年(2020)秋葉区が7万5,000人くらいだと。令和27年(2045)が約5万6,000人ということですよ。そうすると25年ごとに3割くらい減っていくのです。あと75年たつと人口がゼロになってしまう。そういう計算になりますよね。こんなことを書かれても困るわけです。何も対策もしないで、ただただ、今現状ただグラフで書いて、線を延長するところなるというだけでのことで、これは何の政策も取られていないということになってしまう。日本中から東京以外は全部人口がなくなっていくことになる。単なるグラフの延長ではなくて、もっとこうやればこうなるのだというような案を、計画の構想を出してもらいたいというのが1つです。

何もしなければこのままジリ貧でこの秋葉区も消えてしまう。我々そのころいないからいいかもしれないけれども、ということですよ。とりあえず、今、そこだけこれからのことについてどうお考えか。これは政治の問題でも、国政全体の問題でもあるかもしれないけれども、とにかく秋葉区としても、新潟市としても、こうならないように、人口ゼロの県になったり、あるいは市になったり、区になったりしないように、何か対策をお考えのところがあれば、お聞かせ願いたいと思います。区長からお聞きしたいです。

(金子会長)

とりあえず区長のお考えをお聞かせいただきたいと思います。お願いします。

(区長)

ご質問ありがとうございます。おっしゃるとおりで、いたずらに危機感をあおるということでは困るなというのが私の正直な思いなのですが、ただ、ほかの区も含めてですけれども、推計するとやはりそういう傾向値が出てくるということは、1つ押さえておくところかなと思っております。私としては、もちろんこうならないようにどうするのかということに関して言うと、先ほど来、コミュニティ・スクールの話が出ておりましたけれども、やはり人を中心に、それも子どもたちが地域とともに育つ環境を作ることが何よりもその抑止になると思っております。例えば、産業を誘致するとか、

新しい仕事を作るとかということは、なかなか一長一短があって、それによって人が増えるかということ、かなり水物だなという認識があります。ですけれども、特にアキハスンプロジェクトをやっていると思うことは、地域が好きであれば、そこを選んで移住する方もおりますけれども、何よりもそこに住んでいる方々が一回、外に出たとしても、また戻ってこよう、将来的にどこに住もうと思ったときに目指す地域という意味でいうと、やはり地域の磨きをかけることが、何よりも人口減少対策だというふうに思っております。その意味で、アキハスンプロジェクトでやっている地域の魅力を磨くということと、それを発信することというのは、結果として人口減少対策に最も有効だと私は思っておりますので、今日も皆さん、ポロシャツをいっぱい着てありがたいのですが、まさにこのキャンペーンをどれだけできるかと思っております。ご質問、ご意見ありがとうございます。

(伊藤(直)委員)

ありがとうございます。

ついでに言っておきたいのですけれども、人口減ということで今、大都市、特に首都圏中心に人口が集まってきているということで、その他の地域、大阪周辺は少し違うのかも分かりませんが、要するに田舎というところの人口がどんどん減ってきているということでもあります。

ところでこの新潟市に限っていうと、今、にいがた2kmとかということで、新潟の中心街は道路もどんどん作ったりしていますし、さらに新潟駅もどんどん立派になってきていて、それはいいことだとは思いますが、その費用はほかの田舎の区というか、周辺の区からどんどん取って行って、そこに集中しているのではないかと。市長の言われるのは、中心部の中央区の2キロメートルがよくなれば、そのおこぼれ、影響が周辺の区に及ぶと。自動的に及ぶようなことを言っているけれども、それは単純にそういうことは言えないのではないかと思うのです。意識的に他の区も同時によくしていかないと、前から私も言っているけれども、どんどん周辺の区はジリ貧になって行って衰退していくということは明らかだと思うのです。そうならないように、並行的に2キロメートルだけではなくて、他の周辺の区も同時に発展するような施策をしていただきたいと思います。

今、その公共施設再編ということで、市民会館の問題とかありますけれども、そういう中心施設がなくなるということは、地域の衰退そのものであると私は思うのです。文化とか、集会とか、それから地域コミュニティの集会。そういう場所がなくなる。文化活動をやる場所もなくなるということだから、あれはもう中心がなくなるということ

だから、ますます衰退していくということにならざるを得ないのではないかと思うので、その辺のこともよく考慮していただいて、施策を進めていってもらいたいと思います。よろしく申し上げます。

(金子会長)

ありがとうございます。何かコメントございますか。

(区 長)

にいがた2kmに関しては、議会の中でもやはり中央区というか、新潟駅だけに集中する投資に関しては、いろいろな各区の議員からもご指摘がある状況ですし、では各区の側がそれに甘んじているわけではなくて、やはり各区の活性化ということであろうと、当然に取り組みざるを得ない状況だと思っております。秋葉区の状況をお話しすると、今、駅前の旧ホテルだったところが立て直しで今、金融機関という予定がありますけれども、そういう形で少しずつ新陳代謝、要は老朽化している建物が新しい機能という形でまちの姿が変わりつつあると。地元のスーパーがあった本町3丁目のところは、今度、コンビニエンスストアの予定で今、立て直しの解体が進んでおりますし、それに関連していくつかの新しい動きが新津駅周辺から中央公園周辺にかけて動き出している状況ですので、なかなか民間の方々と連携してやっている話しですので、すべからくはお話しできませんけれども、少なくともそういう動きがあるということは、前向きにとらえていいのではないかと思っております。私からは以上です。もう少し詳しくお話しできるようにになりましたら、皆様方に早めに情報提供したいと思います。よろしく願いいたします。

(金子会長)

ありがとうございました。よろしいですか。

(伊藤(直)委員)

商工会議所のほうは、今、区長が言われたような、駅前の再開発の構想というものがもしお分かりになったら。

(金子会長)

そこまでいくと、議題からだいぶそれてしまうと思うのですがけれども、かなり具体的な話しにもなってきましたので、個別に問い合わせさせていただきたいかと思います。また、この自治協議会の対応の中で議論する局面もあろうかと思っておりますので、そのときにまたぜひ皆様からご議論いただければと思います。申し訳ございません。

では、またこちらの区ビジョン基本方針とまちづくり計画のほうに戻りまして、この内容について、何かご意見、ご質問等ございましたらお願いします。

(渡邊委員)

文言について、1点だけ。秋葉区の里山と水に囲まれてという写真の2ページあるもののほうの、3ページ区の将来像の右側です。「やさしさがあふれる楽しく元気なまち」の1個目の○ですが、主語の中に「住民・地域・行政・学校」とありながら、エリアとしての「地域」という言葉も入っているので、もしでしたら、「地域住民」としていただいたほうが、主語としてすっきりするのではないかというご提案です。

(金子会長)

ありがとうございます。「住民」と「地域」を合わせてしまって「地域住民」にしてしまうということですか。「地域住民・行政・学校が地域で連携・協働する」としたほうが表現として整理されているのではないかというご意見ですね。では、こちらは一応、ご意見ということでご検討いただければと思います。

ほかいかがでしょうか。

(青木委員)

今日のご苦勞さまでございます。金津コミュニティ協議会青木と申します。

人口減少を食い止める方法はよその市町村から移住ということで、金津も一生懸命しているのですが、なかなか思うようにいかないということで、せっかくいいビジョンが予定されておりますので、こういう住みやすい環境のビジョンを確実に実行されて、なるべく生まれ育った秋葉区から出さないように、今後、配慮していただきたいなというお願いでございます。

(金子会長)

ご提示いただいた案を見たとえでもご意見ということで、こちらも受けとめていただければと思いますが、何かコメントございましたら。

(副区長)

県が毎年2月、3月に出している人口移動調査というものがございまして、それを見たところ、これは秋葉区以外も大体、どこもそうなのですから、やはり20代の方々が進学や就職で県外に流出するがゆえに社会減が大きいという傾向が、どの区も大体、共通しているところです。若いころと言えば、やはり外へ出て、何かにチャレンジしたいという強い思いも持っておられる方も多いためなのかなと思いますけれども、ただ、その思いを果たすエリアとして秋葉区にも目を向けてほしいと、思っているところでもあります。一応、コメントでした。

(金子会長)

ほかにいかがでしょうか。

(五十嵐委員)

先ほど、区長も言われた、秋葉区の魅力を磨いてPRしていくことで、将来、秋葉区に住んでもらえる人を増やしていくというようなことをおっしゃったと思うのですが、それはもちろん大事なことだと思うのですが、私は、子育てする人が全国から、または新潟県の近隣から秋葉区いいなと思って来てくれる要は、やはり子育て環境ではないかと思うのです。子育てをしていくときに、例えば、今、空き家になっている住宅を市がいろいろリメイクをする手伝いをして、新しくハウスを作り直して、安い家賃で若者に貸し出す、それから子育てするときの学校教育で使う文房具は今、実費徴収されていると思うのですが、そういうところで助成していく。子育てをする上で現実的にお金をかけないでも、ほかの区よりもかけないでも育てていくことができる、そういう具体的な案をいろいろ作っていくと、若い人が増えてくれるのではないかというふうに思います。ただ、文言だけやさしさとか、温かいとか言っても、人は来ないので、その辺を一緒に考えていきたいと思います。

(金子会長)

ただいまの発言は、この資料の中のどの部分をどうしてほしいとか、そういうことではなくということですね。

(五十嵐委員)

どこに書いてあるか、今、見ただけなので分からないのです。逆にどこに具体的なことが書いてあるということがあったら、この場で教えてください。

(金子会長)

今の五十嵐委員のご発言に関する該当箇所ですね。ご説明いただけるとありがたいのですが、いかがでしょうか。

(副区長)

資料3-2の23ページ辺りが、地域で安心して子育てができるよという辺りで書かれておりますが、それもそうなのですけれども、事業の取組みの中身については、今の委員の話もちろんごもっともだと思っております。また、以前に自治協議会の委員の皆様から企画実施していただいた幸福度調査でも、子育ての環境が秋葉区の課題であると、それをまた提言としてもいただいておりますので、やはり子育て環境の構造というのは、年数をかけて取り組むべき課題ではないかなと受けとめておりますので、ご理解いただければと思います。よろしく申し上げます。

(金子会長)

ここに書かれているのは、かなり集約された情報で書かれていて、この下にさらに

施策がぶら下がるという、今ほど五十嵐委員がおっしゃったような具体的な事業というのは、ここからさらに下に細かいものがたくさんぶら下がるという形ですので、そのようにとらえていただければと思います。

(伊藤(直)委員)

話が戻るのですが、先ほど、区長がおっしゃっていた、新津のまちの再開発、駅前のホテル美好が解体されて、そこに新しい病院があって、銀行が入るといった話も聞いていますし、フードさんがなくなって、そこにコンビニができるという話も聞いています。そういうことを先ほどおっしゃったのですけれども、1つ聞きたいのですが、それは民間の方が自分の力でやっているのです、そこに行政としては、どのようにかかわっているのかを区長のほうからひとつ聞きたいのですが。

(金子会長)

それも議題からかなり大きくそれた話になるのですけれども、ついではですのでお答えできる範囲でコメントいただくとありがたいのですが、いかがでしょうか。

(区長)

まず駅前の美好に関して言いますと、そもそもは再開発の話がありましたので、再開発となると補助金を入れることができますので、そこから構想の話に参画して、民間事業ではありますけれども、区としては駅前にこうなってほしい、ないしはこういう機能を入れてほしい。あるいは区であれば、例えば移住相談窓口ですとか、あるいはフリーの方が使われるようなシェアオフィスのようなものを入れてほしいとかという要望的なことはさせていただいておりました。その関連の中で、実際の事業者とのマッチングですとか、あるいは事業者からも区としてはどのようにまちづくりをお考えですかということに対して、やはりまちなかないしは入口、玄関であるところにはこうあってほしいという、そういう意味での意思疎通というのでしょうか、そういう紹介をさせていただいておりました。

一方のコンビニエンスストアができるという予定のところに関しては、直接区としてはかかわりありませんで、むしろ商工会議所、商店街の皆さんがそこに関してはお話し合いの中に主として参画しているという情報は一応、いただいております。ただ、まちづくりとしては、私どもからさせていただいているのは、単なるコンビニということだけではなくて、まちなかの買い物にお困りの方がたくさんいらっしゃるのです、生鮮野菜であるとか、あるいは総菜であるとか、できればイトインのような形で、近隣のお住まいの方々、特に高齢の方々があそこ周辺は多いので、買い回りができるようなサービスと、駐車場も併設されると聞いておりますので、近隣の方々、これは中央コミュニティ

協議会とも懇談会のときに意見として頂きましたけれども、そういうお話を情報として提供させていただいております。

(金子会長)

情報共有ありがとうございました。皆さん。一応、会議は時間の都合というものがございまして、それも少し空気を読んでいただきながらご発言いただけるとありがたいです。別に伊藤さんがそうではないということを申し上げているわけではないのですけれども、でもおかげで貴重な情報を共有することができました。ありがとうございます。

それでは、ほかにいかがでしょうか。

(長谷川(啓)委員)

先ほど、23 ページをお開きくださいとおっしゃったので、開いて、見ましたら、中段の辺りで「コミュニティ協議会や自治会、民生委員」というように表記されておりますけれども、「民生委員」というのはなくて、「民生委員・児童委員」というのが正式名称でございますので、よろしく願いいたします。

(金子会長)

その点は修正をお願いします。ほかいかがでしょうか。大丈夫ですか。

それでは続けたいと思います。先ほど、手を挙げられていた方はほかにいらっしゃいますか。佐藤委員が手を挙げられてましたね。

(佐藤委員)

先ほど、そちらの委員の方が話をされたのですけれども、これまで交流人口を増やすとか、あるいは移住者を減らして人口減少を何とか食い止めたいということが話されておりますけれども、ここには大きく書いてあって、例えば、実際にそれらを行う場合に、どういう人といいますか、年代を移住させたいのか。そういうことから、いろいろ施策を考えていけるのではないかと。例えば、大学、あるいは高校を出て、就職をする。そうすると今の時代、リモートです。IT産業などは、ほかの地域では過疎地でも空き家をリノベーションして、ネットワークで企業を呼んでいるというようなことも可能ですし、そうしたときに秋葉区ではどういうところが該当するのだろうか。それから、子育ても先ほど言いましたけれども、そういう場合に集まる場所がそれぞれの秋葉区の地域にどれくらいあるのだろうか。そして、ないところで空き家がどのくらいあるのか。そういうネットワークというものを全体で見ていく必要があるだろうと。そうしたところに今度、リタイアして戻ってきた高齢者。そういう人たちも交流できるような施設ができないかどうか。

そういうことから考えていくと、例えば、23 ページにもありますけれども、高齢者、

これは年代で考えているわけですがけれども、そういう人たちが安心している。そうすると運転ですね。高齢者の自動車の免許返納ということでやっていますけれども、そうしたときに公共交通の面がどうなっているのか。そういう観点からもいろいろ具体的な施策が浮かんでくるのではないかと思います。

(金子会長)

こちらのほうもご意見ということで、ご意見のポイントは何かという点なのですが、先ほどから議論になっています、人口減少に対応するための施策が恐らくこれを見たときに、あまりインパクトのあるものとして伝わってこないというのが前提にあるような皆様のご発言かなと感じているのですが、そういったことですか。

(佐藤委員)

空き家とか個々の問題でありますけれども、私の家も数十年後には空き家になるのではないかと思います。そういう問題と、いろいろここで目指す姿の項目によって分かれていると思うのですが、それらをリンクさせないと、何か点と点で終わってしまうというようなことなのです。

(金子会長)

つまりここには方向性がけっこう魅力的な文言を使って書かれているのですが、現状をとらえて、そこに対する反対側の出口のほうには、具体的な施策があって、そこをつなぐものが、特に今、おっしゃっていた内容だと、人口減少とか、空き家問題とか、そういったところに関して、少し見えづらい構成になっているのではないかと、そういうことでしょうか。

(佐藤委員)

いろいろ、後継者だったり、どういう問題があるのかとか、そういったことがこの下のレベルでは、そういう関連が分かるかというのかと思いました。

(金子会長)

現状をふまえた対策という、一連の関係性をもう少し表現したほうがいいのではないかとということでしょうか。今、基本計画、まちづくり計画の内容についての審議を行っているので、そのところのご発言の本当の意図を少しお伺いしているところです。どうということでしょうか。私の今の翻訳ではぴんときられていない感じなので。

(佐藤委員)

これは基本ですので、私が言ったところまでは、なかなか書けないのではないかと思います。でも、実際に施策を決めていくときに、そういうこれはこれと結びついているということで、考えていかれているのではないかと思いますので、その辺の説明があれば

理解できたのかと思います。

(金子会長)

では、古俣副区長、コメントいただいてよろしいでしょうか。

(副区長)

佐藤委員のお答えになっているかどうかは確信がないのですが、やはり持続可能な秋葉区、あるいは人口減少をなるべく抑える施策を講じた秋葉区という、そんな辺りがまず1つの大目標にあるのかなと感じています。将来像には、確かにここには、例えば、14ページの施策の体系図をご覧くださいと、左手に将来像として「里山と水に囲まれて花と緑あふれる笑顔咲きそろうまち」とございますけれども、この将来像の影には、やはり先ほど、伊藤委員がおっしゃった5万5,000人はないだろうという話もありましたけれども、私もそう思います。ああなっちはいけないためにどうしたらいいだろうかという言葉も、実は将来像の影には隠れているととらえていただくとありがたいかなと。そうしたときに、人口減少対策というものも、特効薬となる方策がなかなか見つかりにくいのですけれども、そんな中で施策の体系として大きくこの4つを提示させていただいて、それぞれにぶら下がる形で取組みを書かせていただいておりますけれども、佐藤委員からは具体案として、空き家のお話を頂きました。実際、空き家はどんどん増えていく傾向にございますし、また先ほど、コメントの中で紹介した新潟県の人口移動調査を見ていると、秋葉区の場合は、30代、40代の方が転入されてくるケースが比較的多い地域であります。それは取りも直さず、住宅地の開発なども伴っているためだと思いますけれども、また同時に、県外からの転入を見ますと、秋葉区は首都圏からの転入が約半分ございまして、ほかの区は大体、4割代なのです。家を建てて、暮らすところとしては、買い物も便利だし、JRも通っていたりなどして、やはり通勤などにも便利な、あるいは土地も首都圏の方々には安いとされていて、そういったところが選ばれているのかと思って感じています。そういった秋葉区の特徴なども我々ふまえながら、例えば、佐藤委員が具体的におっしゃった空き家の話しであるとか、あるいは五十嵐委員がおっしゃった子育て環境の向上であるとか、そういったところを幅広く施策を打っていく必要が今後、あるだろうなど。そこは必要性を感じております。佐藤委員のお答えになっているかどうかは分かりませんが、そのように感じておりますので、よろしく申し上げます。

(金子会長)

それでは、五十嵐委員、何かご発言はございますか。

(五十嵐委員)

いろいろお答えありがとうございます。少し戻るのですけれども、先ほど区長がおっしゃった駅前の再開発と旧市街の商店街のいろいろな計画について、具体的なお話を少しお聞きした訳なのですけれども、今日聞くまでは大体の区民、市民は、何ができるのだろうというか、何が入ってくるのだろうという漠然とした疑問だけで見上げていたと思うのです。それは、23 ページにもありますけれども、真ん中ごろに地域住民が安心して快適な生活を送ることができるよう、コミュニティ協議会や自治会、民生委員などと連携していきますとあるのですよね。それでやはりどういう機能を持った建物を建ててほしいのかということにも、自治協議会の委員、熱心ないろいろなビジョンとか夢を持っている自治協議会委員の要望や参考意見なども反映させていただいて、それで区長がそういう要望を業者さんにも伝えていくという段階があれば、さらにありがたいなと思ったわけです。商店街のほうも民間がやるので口を出せないということがあるのだとは思いますが、でもあそこは秋葉区の生活をどのように立てていくかという点においては、非常に重大な意味を持つエリアなので、そこは高齢化の人たちが住みやすくするためには、何が必要なかということを行政の立場からも入れていくということは大事なことだと思うので、その辺はどうやったら反映させてもらえるのかという点も含めて、もう少し踏み込んでいいのかと思いました。

(金子会長)

秋葉区内の開発案件に関して、どうやって住民の意見を反映させていくか。そこに価値観を共有するための1つの区ビジョンであるとか、まちづくり計画だとは思いますが、質問が具体的な内容になりすぎて、この計画からはそれているような気がするのですけれども、その辺の所管ですね。これはどうなのでしょう。区長からお話し聞いたほうがよろしいのでしょうか。お願いします。

(区長)

ご質問ありがとうございます。まず、駅前の建物に関して言うと、実は再開発事業というものを民間の方が断念されて、要は行政の補助金が入らないものですから、もう手を離れてしまった経緯があります。ただ、とって区の方角性と沿わないような形では困るので、つどつどご意見というか、ご提案というか、そういう話をさせていただいているということなので、直接補助金が入っていれば事業主体になりますから、もっと意見を言う、ないしは補助金が入るたびに議会への報告等ありますので、市だけではなく、議会をはじめ、市民の方々の意見を聴取するような機会はあったかと思いますが、事業が完全に民間に単独でやるという結論が出てからは、こちらから特に用途的な話しですとか、機能の話は提案に終始しているということをご理解いただきたいと思

います。また、コンビニエンスストアについても、直接商工会議所ないしは商店街という地元の方々が窓口になっておりますので、直接行政のほうから話ができるということではないのですが、ただ、その中間にいる方々には、地区の状況ですとか、あるいは地元の中央コミュニティ協議会のご意見等は伝えているような状況がありますので、もちろんどちらの事業主体の方々についても、地元と関係を作りながら、ないしは事業展開したいとお考えだと思いますので、そのためのコンタクトは続けているということをご理解いただきたいと思います。

(金子会長)

丁寧なご答弁ありがとうございます。

では、ほかに何かございますでしょうか。

(坂口委員)

少し感じたことで今さら言うのも何なのですが、区ビジョン基本方針ということで挙げてあるところで、「潤いとやすらぎのあるまち」、「元気なまち」、「個性を活かすまち」、「育て・活かすまち」というように掲げておまして、具体的に秋葉区は例えば2年後にはこうなるのだぞというところが少し見えないかと。秋葉区として、こういうことをやるのだぞということがあると、もっと具体的に分かるかなと。今、いろいろなことが言われてましたので、そんなことを感じております。

それと先ほども話題にありました、人口減の話しとか、空き家の問題とか、秋葉区内だけでなく、中央区もそうでしょうし、新潟県内すべて人口は減っていると思うのです。その中で、秋葉区だけが人口が増えるということはまずあり得ないと思うのです。そのために、住んでいる人たちだけではなくて、もっと隣接区とか、そういうところに密接な関係を築くための区の施策とか、そういうものも組み込んだらどうでしょうか。にいがた2 kmとかいって、中央区で一生懸命頑張っているのは、いろいろな批判も出ているでしょうけれども、秋葉区として隣接区と協同して何かをやるとか、そういうところで交流人口をもっと増やしていくとか、そういうところを少しでもやっていけば、少しめどが取れるのかなと。ただ、減っていく人口の中でいろいろなことをやっていくだけでは、やはり限界があるのかなと、そんなことを感じておりますので、ぜひ区として、そういうところをぜひやっていただきたいなと思っています。

(副区長)

先ほどの区ビジョンまちづくり計画素案の14ページでしたでしょうか。体系図も一緒にご覧いただければと思うのですが、区ビジョンまちづくり計画は、ツリー構造となっていて、区ビジョン基本方針は15ページのほうで言うと左半分になるわ

けですけれども、坂口委員のおっしゃった踏み込んだ取組みを表現してはどうかというお話なのですが、実は私どもとしては、右半分のほうで表現していきたいと。あるいは右半分の後ろに、さらに実施計画としてさまざまな事業が登場してまいりますので、そういったところで空き家のお話であるとか、子育て環境の向上に向けた取組み事業であるとか、そういったものを右側のほうで表現していきたいと思っておりますので、どうかよろしくお願ひしたいと思ひます。また交流人口を増やす手立て、なかなか昨今はコロナで停滞しておりましたけれども、ようやくイベントのほうも行われるようになってまいりました、もっとたくさんの人から秋葉区に足を運んでいただいて、それがイベントのときだけ秋葉区にくるのではなくて、もう常に秋葉区に足を運んでもらって、秋葉区の人たちとも交流を深めていく。そういう関係づくりというものを今後、ポストコロナということを見据えて、組み立てていけたらいいかなと感じております。よろしくお願ひします。

(坂口委員)

ありがとうございます。ビジョンの基本方針というところで、だれもがここを見れば、目指す姿に向かっていくのだよということが分かるようなものであればいいかなと思ひますので、ひとつよろしくお願ひします。

(金子会長)

ほかにご意見ございますでしょうか。

(渡邊委員)

先ほど、佐藤先生からのお話し、何となくイメージとしては、32 ページのところにある、「まちづくりの方針」の一番上に、「空き部屋や空き店舗を活用して」というところに、「空き家」というものも入ってくるといいのかと思ひました。それが例えばですが、22 ページの上から4 番目に、核家族化が進む中で安心して子育てできるよう取り組みますとか、それぞれの分野ごとに、多分、ご活動されていることがあって、それがどう関連しているかということが見えにくいというご指摘だったのではないかなと思ひます。ですので、その辺が見えやすい形になるとありがたいなということが1 点。

もう1 つは、皆さんのご興味が、けっこう空き家という課題があるよねというところが多く聞かれたので、もしでしたら先進地から学ぶ学習会とか、どのように活用できるのかということ自治協議会の中でやっていったらいかがでしょうか。

(金子会長)

すみません、私、少し聞き漏らしていたのですけれども、最初のご指摘の空き家の部分は何ページとおっしゃいましたか。

(渡邊委員)

32 ページのまちづくりの方針のところ、エリアとしては商店街などとのところになってしまいますが、この中にも空き家という文言を入れて。

(金子会長)

「空き部屋や空き店舗」となっているところですね。

見えやすい形はどういう形ですかね。なかなかすごく大きなリクエストだと思うのですけれども。

(渡邊委員)

すみません、私、論文の方式だと、例えば、まちづくりの方針の◆の文書の後に、これは何々に関連するとかとあって、この◆ではなくて、数字とかにさせていただくと、そこに関連して移住支援しているのねというように読み解きやすいというところはありません。

(金子会長)

そこに該当する番号も相当な数になると思うのですけれども、かえって見づらいというご意見も出てくるかもしれないですね。一応、ご回答をお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

(副区長)

ご意見、アドバイスありがとうございます。確かに 32 ページの「空き部屋」のところは、やはり「空き家」も入れたほうがいいのかと思って、ご意見拝聴いたしました。ありがとうございます。あとまた見せ方の部分ですけれども、こちらのほうでも考えてみたいと思いますけれども、また 8 区と書き方をそろえなければいけないという縛りもありまして、できるかどうかは分かりませんが、ただ実際にこの区ビジョンまちづくり計画ができあがってから、区民の皆様にご説明する機会などあるかと思っておりますので、そういった場では、横断的な見方を説明できるように備えていきたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。ありがとうございました。

(金子会長)

区ごとにフォーマットが違っていると、それが大変な批判の的になると思っておりますので、その辺もご理解いただきつつ、最大限、努力をいただければというふうに思います。

ほかいかがでしょうか。

(伊藤(直)委員)

説明していただけるとありがたいのですけれども、22 ページの人口減少ともかかわりがありますけれども、●の 2 番目、「人口減少社会を迎える中、若年女性の人口減少率が

高まると推計され」、これは人口減少の1つの要素かなと思いますけれども、これは新聞によると、先ほど、どなたかおっしゃっていましたが、秋葉区は住み続けたいまち、第1番だということなのですから、若年女性に限っては、そうでもないような感じなので、この辺、原因に若年女性だけではなくて、若者たちが進学やら就職で、どんどん社会減として出ていかれるということで、その中で、特にまた女性が多いということですから、その理由というのは何かお聞きしたことあるかと思うけれども、どういうことだったでしょうか。お願いします。

(金子会長)

伊藤委員だけではなくて、皆さんに申し上げたいのですけれども、今の審議はこの内容をどういう表現にしていくかということ意見を交換しています。そのために秋葉区は一体、何をしているのだとか、何をしようとしているのだとか、現状はどうなのと、その辺りのところを問いただす時間ではないということをご理解のうえ、会議にご参加いただきたいと思います。ただ、今、ご発言いただいたことに関してはご答弁いただきたい。

(伊藤(直)委員)

いや、その理由が必要でしょう。ある程度解明していかないと分からないと思うので、少し書いていただければ。

(金子会長)

理由を聞いたうえで、この表現を考えなければならぬからという、そういうご発言ですかね。では、お願いします。

(副区長)

この2つ目の記述に関して、しっかり私自身が勉強しているわけではないですが、必ずしも女性だけに帰する問題ではないことは承知しております。社会で子どもを育てられる環境づくりというものも求められていると思いますし、その社会の中には就労もそうでしょうし、地域もそうでしょうし、また何よりも女性自身が自らのライフプラン、あるいは一人ひとりがやりたいことをお持ちであるということの中で今、人口減少の問題が浮き彫りにされていると認識していますので、このわずか2行しかないのですけれども、実際には非常に深いさまざまな課題が潜んでいるということをご承知しているところでございます。

(金子会長)

ありがとうございます。少々強い表現でお願いをしてしまいまして、申し訳ございませんでした。限られた時間の中で、なるべく本題に沿った議論を終わらせていきたいと

思いますので、ご協力のほど、お願いいたします。

(渡邊委員)

今の箇所に関して、22 ページの2 番目のところは、大変申し訳ないのですが、女性に特化して書いているので、見る方によっては、女性は産む道具であるという書き方をなされているというようにとらえる方もいらっしゃるかと思います。ですので、もしでしたら、「女性」を「子育て家庭」というように、少し言葉をやわらかくしていただけるといいかと思いました。

(副区長)

ありがとうございます。検討させてください。お願いします。

(金子会長)

お願いします。ほかにいかがですか。

(加納委員)

11 ページの自然のところ、特に秋葉公園は、秋葉丘陵の中でというくだりの中で、キャンプ場、野外音楽堂など野外活動のための魅力的な施設がたくさんありとありますが、私、こちら秋葉区に住んで 30 年になるのですけれども、この野外音楽堂で何かイベントがされたといったことはほとんど聞いたことがないのです。以前、初めて見たときは、芝に覆われて、あら、こんなすてきな施設があるんだというようにも感じました。今は何だかその芝もなくなってしまって、廃虚、もしくは物置みみたいな雰囲気になっているので、むしろここを外したほうがいいのではないかと思います。

(金子会長)

一理あるご意見かと思えます。いかがでしょうか。

(副区長)

ありがとうございます。現在、ここは作文中で、野外音楽堂のところは今、「森のようちえん」が建っています。そもそもこの記述は8 年前の記述をそのまま仮置きしておりますので、ご理解いただきたいと思えます。ありがとうございます。

(金子会長)

ほかにいかがでしょうか。よろしいですか。ほかになければ、次第(3)「次期区ビジョン基本方針(案)と次期区ビジョンまちづくり計画素案について」の部分を終わらせていただきたいと思えます。活発なご議論ありがとうございました。

(4) 令和4 年度秋葉区地区懇談会の開催について(報告)

(金子会長)

続きまして、次第（４）「令和４年度秋葉区地区懇談会の開催について」のご報告です。引き続き、古俣副区長をお願いします。

（副区長）

引き続き、私におつきあいください。

秋葉区地区懇談会の開催報告でございます。まず開催にあたりまして、会場の予約準備はじめ、運営に至るまで地域コミュニティ協議会の皆様から大変なご理解とご協力をちょうだいいたしました。この場をお借りしまして、厚く御礼申し上げます。大変ありがとうございました。それでは、資料をご覧ください。

今年度も新型コロナウイルス感染症拡大防止に配慮しながらの開催となりました。昨年度に引き続きまして、開催時間を４０分程度にお願いさせていただきますとともに、各コミュニティ協議会からは参加者を少人数に絞っていただくなど、規模を縮小した開催となりました。実際には、もちろん４０分よりも長くお時間を頂いて、意見交換をさせていただいたところもございます。各コミュニティ協議会の開催日や参加者数などにつきましては、真ん中の表に記載のとおりでございます。選挙などもございまして、開催のスタートが遅れまして、日程調整でコミュニティ協議会にご協力いただきまして、ありがとうございます。

続きまして、資料の裏面をご覧ください。上の表についてです。各コミュニティ協議会から寄せられました合計７４件の地域課題を分野別に分類して、件数をお示ししております。一番多かったのは、都市基盤・交通等で３７件でありました。続いて、生活環境が１３件、安心・安全が１０件と続きました。懇談会では、取り扱う地域課題については、３題に絞らせていただいて、意見交換などをしたところがございますけれども、そのほかの地域課題につきましては、書面でご回答を提出させていただいたところがございます。

次に、４の地域課題の主な意見・要望についてですが、分野ごとに課題の項目を列挙いたしました。都市基盤・交通等では、交差点の改良やガードレールなどの道路整備、あるいは横断歩道、信号機の設置、除雪や消雪パイプの整備などについてご意見を頂いたところがございます。また、生活環境では、空き家対策や除草、樹木の伐採・せん定などに関しましてご意見をちょうだいいたしました。安心・安全では、防災行政無線の設置、防災講座の開催、あるいは避難訓練の実施などについてご意見をちょうだいしたところがございます。そのほかの分野につきましては、ご覧のとおりでございますけれども、その他として秋葉区のコミ協単位での地域別人口の推移につきまして、資料を用意して、各コミュニティ協議会に区長から説明を差し上げたところがございます。資料

の内容的には、政令市移行 15 年になることから、意向直後の平成 19 年と平成 4 年の人口の比較ができるように資料を準備しまして、お話し差し上げたところでございます。今後も、一緒に人口減少対策について取り組ませていただきたいということをお話しさせていただきました。

以上が今年度の地区懇談会についてのご報告になります。説明を終わります。

(金子会長)

ただいまのご説明について、ご意見、ご質問等ありましたら、挙手をしてご発言ください。いかがでしょうか。

(伊藤(直)委員)

この各コミュニティ協議会からの具体的な提案、要望が、実際のところよく分からないのですよね。どんなものが出されているのか。ここでこの自治協議会の委員がある程度、共有できるような、全部といったら大変だろうから、主な項目だけでも、もう少し具体的などころを書いていただければありがたいと思うのですが。できたらよろしくお願いします。

(金子会長)

伊藤さん、特にどの辺りが気になりましたか。

(伊藤(直)委員)

要するに今、ずっと問題にしてきましたけれども、空き家対策というか、人口減に関係して、生活環境というか、空き家対応だとかというところでしょうか。それから、安心・安全のところでしょうか。その辺のところをもう少し何項目か、主なものでも取り上げていただければありがたいと思います。

(金子会長)

特にこの 4 番の部分ですよね。課題であるとか、要望であるとか、見出しだけが並んでいるのだけれども、その要望というのはどういうことだったのかというところが、これではあまりにも簡素すぎるというご発言ですね。古俣副区長いかがでしょうか。

(副区長)

例えば、生活環境の空き家の関係で申し上げますと、あるコミュニティ協議会では、特定の空き家が老朽化して、例えば、風が吹いたときに屋根の部材が飛んでしまいそうだとかいうようなことでご心配をされているというお話をいただきました。こちらにつきましては、所有者の調査を進めているところでございます。飽くまでも第一義的には所有者の管理責任というところが大事になってまいりますので、そのようなお話をさせていただきます。

それから、安心・安全につきましては、防災行政無線につきましては、音が聞こえにくいなど、あるいは防災情報の伝達について、行政はどのように考えているのかなど、ご意見を頂きました。その後、ご意見を頂いたコミュニティ協議会に説明を差し上げております。

それから、またあるコミュニティ協議会では、避難訓練に取り組みたいのだけれども、どのような企画をしたらよいかというお尋ねも頂きました。こちらにつきましては、担当のほうから事例などを紹介しながら、企画に向けて助言を差し上げてきたところであり、今後、訓練を実施されるようですので、期待しているところでございます。そのようなケースがございました。一例ですが、よろしく申し上げます。

(伊藤(直)委員)

今、説明を口頭でしていただきましたけれども、今後は文書にして書いていただければありがたいと思います。

(金子会長)

ご検討いただくとして、ただ、すべての意見となると何百、何千という、非常に見づらい資料になってしまうという別の事情もあるかと思っておりますので、バランスのいいところはどの辺りかというところで、それを全員に配るということですか。

(伊藤(直)委員)

そんなに何項目も必要ないと思います。主なところで。

(金子会長)

主なところを選ぶという作業が非常にまた難しくなってくるかと思えます。要は住民意見に重みを勝手に判断してつけるのかということにもなっておりますので、お気持ちは分かるのですけれども、非常に難しい作業かと思えます。その辺のところは、バランスのよいところで資料作成を常に心がけていただいているとは思っておりますけれども、すみません、私の私見に過ぎませんけれども、その辺のところはすべての意見を、あるいは抜粋した意見をということは非常に難しいかなと個人的には思えます。伊藤さん、すみませんね。

(蓮沼委員)

今の伊藤さんの質問ですけれども、こちらは全部コミュニティ協議会関係が来ているのですよね。自分たちのコミュニティ協議会の中身については、それぞれみんな理解されていますし、コミュニティ協議会と秋葉区役所でやっている地域懇談会の内容をオープンにしてくれということなのです。これはコミュニティ協議会の上にはコミ連があるのです。私はコミ連の副会長をやっています。そこを差し置いて、中身をこの場を出し

てくれということはいかがなものかと思えます。私は、この程度でいいのではないかと思えます。ただ、その辺、コミ連を無視して出すということは、少し考えてもらいたいなと思えます。

(金子会長)

それぞれのご意見ということで、お聞きいただいたという、そういうまとめにしたいと思えます。

今の点に関して議論しても仕方がないので、それぞれのご意見ということで、承らせていただきたいと思えますが、何か違いますか、伊藤さん。ほかに何かありますか。

(伊藤(直)委員)

ここは自治協議会なので、区に関することすべてのことをここで取り上げていわけだから、コミ連もあるけれども、そのコミ連でまとめられてからでも、別にかまわないと思うのです。コミ連を通してここに教えていただければありがたいと思えます。別に差し置いてなどということは全然考えていませんから。何がこのコミュニティ協議会で、この区の問題で取り上げられているのか。コミ連としてそれをどうまとめられているのか。まとめようとしているのか。知る権利が我々だってあるわけです。

(金子会長)

もう少し丁寧な、別の議論が必要だと思えますので、ここは双方のそういったご意見があるということの受け止め方で収めさせていただければと思えますが、お願いいたします。

(青木委員)

ここに盛られている内容は十分だと思えます。細かい説明を聞きたければ質問すればいいと思うので、あえてここに一言一句載せる必要はないと思えますので、これで十分だと私は思えます。

(金子会長)

ありがとうございます。それでは、また別のご意見やご質問がございましたら挙手ください。よろしかったでしょうか。ありがとうございます。では、これで次第(4)「令和4年度秋葉区地区懇談会の開催について」を終わらせていただきます。

(5) その他

(金子会長)

では、最後次第(5)「その他」に入ります。第1部会から順番に第2部会、第3部会、広報部会の各部会長の皆様から部会の活動についてご報告を頂きます。最初に第1

部会横山部会長、お願いします。

(横山委員)

きらめきサポートプロジェクトを実施しております、4つの採択された事案につきまして、現状動いているものが、「ぎゅっともつとずっと秋葉区フォトコンテスト『私の好きな秋葉区』」の募集が終わりまして、大賞と部門賞が選ばれていました。そして自治協議会から担当の委員が花の部門と食の部門を選んでいただきまして、部門賞が決まりました。小須戸にある薩摩屋さんと文化会館、八帖二間さんに飾りますので、ぜひご覧いただけたらと思っておりますし、これから駅のバナーにも飾られますので、ぜひご覧いただきたいと思っております。その展示が終わりましてから、ご協力いただけるコミュニティ協議会の会場にて見られるように配置されますので、ぜひともご協力よろしくお願いたします。

続きまして、「クマ・イノシシなどの大型獣から命を守る安心安全なまちづくり」は、小中学校教諭に対しまして、Zoomですけれども大型獣の対策など等の講習会が行われまして、381名の方に参加していただけたというご報告を受けております。

「秋葉地区周辺案内地図設置事業」はこれから第2回の話し合いが進むというところ

です。「アキハフジンロックフェスティバル～ミモザパーティー～」は、これから動いていくということでご報告を受けていますので、これから行うものに対しても、ひとつご理解、ご協力いただけたらと思っております。

(金子会長)

ありがとうございます。

では、第2部会蓮沼部会長お願いします。

(蓮沼委員)

第2部会の9月の活動状況ですけれども、まず満日地区の生活交通支援ですが、9月の時期については、満日地区で買い物等に車の送迎を希望するかどうかというアンケート調査並びに募集をかけました。昨日までの現在で11名がぜひお願いしたいという希望がありまして、実は昨日、それを基に満日コミュニティ協議会、それから満日地区の代表の方、町内会、4つの社会福祉施設の方と我々と社会福祉協議会が集まりまして、どうやって実現しようかという具体的な議論まで進めることができました。目標として、12月には実施をしたいなということで、毎週火曜日か、もしくは月2回程度の火曜日か、ウオロクに買い物に連れていこうということで、それに向けて今、動き出したというところ

それから、防災関係は、10月15日、市民会館で防災講演会を開催します。これは大雨が降ったときの土砂崩れに対する災害を極力小さくしようといった講演会になるのですけれども、今、それに参加したい人を各コミュニティ協議会のほうで募集をかけている状況です。10月5日までに報告となっています。ただ、市民会館なので、多くの人数が入れなくて、最大100名かなということ、特に山の手、金津、新関、そういった山に近いところを優先的に進めていこうかと今、行っています。

もう1つ防災関係については、小学生、中学生向けの子供用の防災手帳を新たに作って、全小学校中学校の生徒に配るということで、9月の時期は、デザインが決まりました、今、印刷にかかっています。10月の半ばには、各コミュニティ協議会から小学校、中学校のほうに配付して、全部の子どもたちに配り終えようかと思っています。それを基にして要望があれば、学校のほうで何か説明会とか、講演会とか、次に考えていきたいかとも思っていますけれども、それについては今日、これから2部会のほうでまた話していきたいと思っています。

(金子会長)

ありがとうございました。

続きまして、第3部会花水部会長お願いします。

(花水委員)

第3部会、おとな大学です。トレッキングのほうは11月13日に初心者向けのコースを行います。これは10月2日号の広報に載せまして、10月5日から参加申し込みを開始いたします。定員が15名ということになっておりますので、皆さんはちょっとあれかなと思いますが、興味を持っていただければありがたいです。

その前に行う予定としていました10月16日に歴史講演会を行う予定にしていたのですけれども、講師の方の体調不良ということで、一応、募集をかけた後だったので、このまま延期という形で、体調回復してから、また相談をしてから日程を決めさせてもらいたいと思います。

もう1つもち麦c o o k i n g !は第2回がいよいよ11月です。10月4日に食推さんたちと一緒に試作品を作ります。その後、収録を10月13日に行いますので、配信は11月からということで、メニューも決まっております。ここで公表しますが、きのこご飯、もち麦入り里芋のそばろあんかけ、さわし柿のヨーグルト和えの以上となっておりますので、また皆さん、広報等を見ていただいて、参加をしていただければありがたいと思います。もち麦絡みで、もう発売になっています月刊にいがた9月25日発売の10月号ですが、この中でアナウンサーのロコミグルメのページがあるそうです。ご覧にな

った方は、まだいらっしゃいませんか。見開きの2ページを使ってあるそうです。今日、来ていただいているFMにいつの斉藤さんが秋葉文化会館内のコトイロカフェさんのもち麦を使ったランチメニューを紹介しているそうです。ぜひこれも見ていただくか、ご購入いただいて見ていただくか、皆さんよろしくお願ひいたします。

(金子会長)

ありがとうございます。

では、最後に広報部会の加納部会長お願ひします。

(加納委員)

広報部会では、もうすでに本日、かわら版 30 号として「あきはくはつものがたり」がお手元に届いているかと思ひます。中身については充実しているかなと思ひておりますので、もう一度、じっくりとご覧いただければと思ひております。後ろの4コマまんがのほうは、青木委員に出演していただきました。もち麦のほうは花水委員に参加していただきまして、ありがとうございます。これで30号が出た後は、ちょっと中休みをさせていただいて、ただ継続的にやるのは毎月第2水曜日のFMにいつの「あきはくはつものがたり」、次回10月12日は市橋委員、長谷川啓子委員に出演をお願ひしておりますので、ご協力よろしくお願ひいたします。

(金子会長)

ありがとうございます。では、ご報告を受けまして、皆様から何かご意見、ご質問ございましたらお願ひしたいと思ひます。いかがでしょうか。

(荒井委員)

皆さんのお手元にカラフルなチラシをお配りしてございますが、少し宣伝させていただきたいと思ひますけれども、この11月20日(日)に「2022秋葉音楽祭」を開催することになりました。秋葉音楽祭はこれで30回近く開催されてきていたわけですが、このコロナ禍で2年続けて中止せざるを得なくなりました。今回、ひさしぶりに開催できる予定でございます。それで今回、第1部と第2部ということで、第2部のほうは、秋葉区に少しゆかりのある女性の音楽家の3人の方に来ていただいて、楽しい演奏をしていただくことになっておりまして、第1部のほうが、今回のメインということになります。少し小さい文字で参加団体が書いてございますけれども、このような各団体の演奏をご披露することになっております。よろしくお願ひしたいと思ひます。

それからもう1つ、コミュニティセンターを設置されておられる協議会の委員の方々に袋の中に入れて、このチラシとポスターを折り込んだものを入れてございますが、これは各センターのほうで掲示していただいて、宣伝していただければ大変ありがたいと

思っております。よろしくお願ひします。なお、荻川のほうにつきましては、すでに音楽協会の役員の方がお届けしてあるということですので、今日、お配りしませんでした。よろしくお願ひいたします。以上でございます。ありがとうございます。

(金子会長)

荒井委員、ご紹介ありがとうございます。部会報告に関して、何か皆さん、ご意見なり、ご質問はございますか。特にございませんでしょうか。今の荒井委員のように、そのほか何か共有したいことがございましたら、ご発言いただけて結構ですがよろしいですか。

(木村委員)

先般9月21日に地域活性化委員会というものを発足いたしました。それから、10月11日にひな・町屋めぐりの実行委員会を立ち上げる予定にしています。お知らせしますと同時に、ここにいらっしゃる皆さんを含めていろいろご協力することが多いと思いますが、よろしくお願ひいたします。

(金子会長)

ありがとうございます。ほかいかがでしょうか。

(渡邊委員)

すみません、資料はお手元にはないのですが、HUGひろばとって、移動式の児童館の活動を始めました。子育て環境を自分たちでよくしていこうと思っております。もし、お近くにお子さんとかいらっしゃる方がいられば、10月10日午後1時から新津健康センターで子どもたちが遊べるような環境を作りたいと思っております。無料ですので、ぜひお越しいただければと思います。ご興味のある方、入口のところにチラシがいくつか置いてありますので、お持ちいただければと思います。

(金子会長)

ありがとうございます。

ほかいかがですか。

(佐々木委員)

このコロナ禍で2年くらいにいがた秋葉っ子ふゆまつりをずっと中止してきたのですが、来年1月29日に3年ぶりに開催をしたいと今、準備を進めているところです。これから実行委員会を発足しまして、子育て関連の皆様にお声がけしたりして、これから準備を進めていくのですが、いつもコミュニティ協議会の皆様にご協力いただきまして、ご協賛もいただいております。これから手紙等がまたまいるかと思いますが、よろしくお願ひ申し上げます。

(金子会長)

ありがとうございます。ほかにございますか。よろしいですか。気がつけばもう10月ですね。ということは、そろそろまた来年2月、3月のわが自治協議会の一大イベント、ひな・お宝巡りというものをどうしましょうということを議論し始める時期なのかと感じるのですが、飯村部会長、今日、その辺のアナウンスおありだということで、お願いしてよろしいですか。

(飯村委員)

ありがとうございます。いつ切り出そうかと思ってもじもじしてしまっていてすみません。タイミングがずれましたが、お手元の資料にも広報紙にも、少し部会のこれからのことを2、3行書かせていただきましたが、ひな・お宝巡りは伝統のおまつりでもありますし、まちの方が楽しみにしているということと、それから去年は新潟薬科大学も始めて参加させていただいて、盛大な感じで大変好評だったということもありまして、ぜひコロナと言えども、いろいろと人も動いていますから、もう少し盛大に今年是可以なのではないかと予測しております。

事務連絡的にもなるのですが、来月10月くらいからいろいろとまた新しい企画も練りながら、少し部会の方たちと詰めたいと思っていて、今、部会の方たちの日程なども調整させていただいている最中です。ですから、次の自治協議会以降のところか何かで触れるといいですか、皆さんたちにまた新しい情報が提供できるかどうかということなので、また2月辺りに向けて急ピッチで進めさせていただきたいと思っておりますので、どうぞ皆様のご協力もぜひよろしくお願いしたいと思っております。よろしく願いいたします。

(金子会長)

飯村部会長、ありがとうございます。昨年度もコロナ禍中でいろいろ工夫をしながら、止まることなく実現していただきました。また来年度もぜひ皆さん協力し合って、いいイベントにしていきたいと思っておりますので、ぜひともよろしくお願いいたします。ほかにないですね。

あとすみません、これも個人的なお話になってしまうのですがけれども、また忘年会をぜひやりたいと思っていて、事務局と相談させていただいております。できることならば、この2年間ほどできていない秋葉区選出議員の皆様もご一緒いただければ、意見交換会を含めてやらせていただければなどということも考えていますので、また決定次第、皆様にご案内差し上げたいと思っておりますので、ご参加いただければと思っております。その辺のところを予告として申し上げて、以上を持ちまして、議事は終了させていただきました。

いと思います。

3 閉会

(金子会長)

本日、閉会のあいさつは、第1部会の五十嵐委員をお願いします。

(五十嵐委員)

第1部会の五十嵐です。この前、9月4日に発行された「あきはくはつものがたり」の中で、右側の下に掲載していただきました、公募委員として4月から参加させていただいて、いろいろここで勉強させていただくことばかりで、いつも目を見張っているのですが、今日とはとにかく(1)から(5)ということで議案も多く、すごく活発な論議がなされたので、さらに勉強になりました。また、行政の方々から、説明していただく機会があり、本当にここでなければ聞けないことだなと思って、ありがたく思いました。さらにコミュニティ協議会の皆さんがすごく多彩なことをなさっているのでびっくりして、ああそんなこともあるのだなということで、目からうろこが落ちました。参加したいなという企画がたくさんありました。行政と市民をつなぐ自治協議会の役割がだんだん分かってきたような私です。これからもこういう機会を頂いて、皆さんと一緒に住みよい、暮らしやすい秋葉区になるような、ちょっとどころかいっぱい力を出していけたらいいと思いますので、これからもよろしく願いいたします。今日は皆さん、大変ご苦労さまでございました。ありがとうございました。

(金子会長)

それでは、進行を事務局にお返しします。